

勝山市総合行政審議会（第11期第10回）結果概要

- 開催日時 平成22年11月4日（木） 午後1時30分～午後3時30分
○開催場所 教育会館1階 勝山公民館第1会議室
○出席者等 出席委員 11名
事務局 企画財政部未来創造課
担当課 林業振興課 学校教育課

1 会長あいさつ

2 審議

- (1) 農山漁村活性化プロジェクト支援交付金にかかる事業活用活性化計画目標評価報告書
に対する意見について

○担当課（林業振興課）より説明

【質疑応答】

農山漁村活性化プロジェクト支援交付金について

●委員

- ・就業者数の当初が28人で、平成21年度末でも28人となっている。実績値では36人となっているが、どういうことか。

○担当課

- ・就業者数の維持を目標にしたため。平成21年度末で28人というのは目標値。実際は、目標値よりも8人増えて36人の就業者数となった。

●委員

- ・農山漁村活性化プロジェクト支援交付金実施要綱第8-2に“改善計画”とあるが、ここではどれを指しているのか。

○担当課

- ・改善計画は、目標達成率が70%未満の場合に作成することになっている。今回は達成率が70%を超えているので作成していない。

●委員

- ・ダブルギャングソーという機械で加工される木材は集成材だと思うが、集成材の重要は高いのか。

○担当課

- ・建具などに使われる木材は、集成材が主流になっていると聞いている。

●委員

- ・今は、本物志向が強く、無垢材に注目が集まってきている。このことを加味して集成材の機械を入れたのか。製材品の販売量の達成率は72.32%なのに、就業者数が8人増えているが、採算はとれているのか。黒字化されないと意味がない。

○担当課

- ・集成材を取り扱う企業が近隣の市に進出したことから、この企業に出荷することを見越して機械を導入した。
- ・素材を活かした木材は従来から製造しており、継続している。

●委員

- ・森林組合は、その企業をターゲットとした事業を展開するために機械購入の申請をして、市はそれを認めたということか。

○担当課

- ・そのとおり。

●委員

- ・木材加工の機械を導入したことで、雇用が8人増えたのか。他の要因があるのか。

○担当課

- ・間伐材の生産を拡大している。このことで雇用が増加した部分がある。機械の導入だけが雇用増の要因ではない。

●委員

- ・交付金がなくなったら今の従業員数は減っていくのか。この後も従業員数を維持できるのか。

○担当課

- ・木材加工の機械を導入したことで、間伐材の生産量も増え、事業拡大を今後図っていくことから、現在雇用している36人を維持していくことを予定している。

●委員

- ・農山漁村活性化プロジェクト支援交付金は何に充てられたのか。

○担当課

- ・木材加工の機械（ダブルギャングソー）を購入するためだけに交付金をいただいた。単年度事業で、機械購入費は3,631万円。

●委員

- ・林業行政の今後の見通しをどのように考えているのか。

○担当課

- ・昭和30年代に進められた造林によって、販売できるまで生長しているものの、木材価格の低迷により伐採できないでいる。まずは、間伐事業を推進して、針葉樹と広葉樹が混在した森づくりを目指していく。また、間伐をするための作業道や林道整備については、国や県の事業を模索しながら、地元負担が少なくなるよう進めていきたい。

●委員

- ・総合行政審議会としての意見、要望は次の通り。

- ①集成材を主力としつつ、無垢材の利活用を今後も進めること
- ②製材品販売量の目標達成率が72%であるので、100%になるよう事業を進めること
- ③計画的な間伐材生産を図ることで、現在の雇用者数を維持すること
- ④新たな販路開拓を図ること

(2) 平成21年度勝山市政策基本目標管理外部評価について

○事務局、担当課（学校教育課）より説明

【質疑応答】

一般競争入札の全面導入、総合評価落札方式、電子入札導入

●委員

- ・小規模修繕の登録申請の際に、業者の資格や免許等を記入させることは手間ではあるが、大切であるので、この部分を簡略化しない方がよい。

まちの駅全国協議会への加入と民間活力による拡大振興

●委員

- ・まちの駅全国協議会への加入のメリットはなにか。

○事務局

- ・まちの駅同士の交流や情報交換、まちの駅の広域ネットワーク化による連携イベントの開催、災害時の相互支援の道筋づくりなど他地域との連携、専門的な人材の活用、まちの駅のPRに伴う勝山市のPRなど。

「生きる力」を育成する教育の推進

●委員

- ・教員のレポートに対するフィードバックはどうなっているのか。また、いじめをなくすシステム、あるいは、いじめをすぐに察知するシステムはできているのか。

○担当課

- ・教員が授業改善に対する1年間の目標を年度当初に作成し、その成果をレポートとしてまとめている。また、さらに授業改善研修を実施し、その中で、素晴らしい授業計画を立て実践された教員にプレゼンをしてもらうことで、全教員にフィードバックしている。
- ・各学校でいじめの専門員会を設けている。早期発見のために、各学校で対応マニュアルも作成している。また、担任以外の先生による個人面談を年に定期的実施している。さらに、アンケートにより学級集団の中に不登校やいじめ、学級崩壊の可能性がないか調査している。
- ・教育委員会で教員間の情報ネットワーク化を図り、情報の提供、共有化を行っている。

●委員

- ・保護者との連携も忘れずにしてほしい。教員による授業改善の努力は継続して行ってほしい。

●委員

- ・いじめは、騒げば騒ぐほど逆効果になる場合がある。システムがしっかりすればするほど現場では見えない所ですさんでいる可能性が有る。先生や保護者に一番大切なのは、認識してもらって、いつでも味方であると示してもらうことだと思う。

○担当課

- ・子どもに合った教員が個別面談で対応するようにしている。

●委員

- ・個別面談だと子どもたちは敏感に感じ取ってしまう。日常の会話の中から察知する感度を教員や保護者が持つことが必要だと思う。

●委員

- ・学級の質が上がれば、いじめをカバーする子どもが育ったり、いじめている子の心の支えになったりする。人間としての質を高めることを念頭に指導にあたれば、子どもにも伝わると思う。
- ・いじめの問題には、学校だけでなく、家庭、相談員、行政などが連携して対応してほしい。
- ・個別に解決するだけでなく、生きる力を育むことを考えて長い目で頑張っていたきたい。

●委員

- ・かつやま子どもの村小中学校は、まさに生きる力を育むことを目的に子どもたちを指導している。私立と公立の先生の交流はないのか。

○担当課

- ・教師の交流は現在は行っていない。児童の交流は、一部の小学校との間で行われている。

●委員

- ・子どもの村の先生は生きる力の教育に対するノウハウを持っているので、先生同士の交流があると、ヒントが得られると思う。児童生徒同士の交流でも刺激を受けるのではないかと。

○担当課

- ・子どもの村の教育は、公立の総合的な学習の内容と一致する。しかし、総合的な学習の時間

数が減少している。いろいろと研究していきたい。

●委員

- ・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし

福井型コミュニティスクール

●委員

- ・内容をみると目標を達成しているようだが、なぜ内部評価を4としたのか。

○担当課

- ・すべての地域で子どもが地域行事に参加していないため。市民体育大会では中学生が企画の段階から参加している地区もあるが、全ての地区ではない。

●委員

- ・学校評議員とは何をするのか。

○担当課

- ・学校評議員は学校の応援団。様々な学校行事に協力をいただいている。評価委員は学校の評価のシステムをチェックする機能。

●委員

- ・近年は、市民体育大会で地域の小中学生が参加して、会場作りから後片付けまでしている。それも、強制ではなく自然と参加しているように見える。良い成果が上がっていると思う。

●委員

- ・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし

●委員

- ・多くの小学校では、地域との一体性が見られる。しかし、一部の地区では中学生の参加があまり見られないので、課題としていただきたい。

次世代育成アクションプラン

●委員

- ・世代間交流で、高齢者が縄作りや餅つきなど教えているが、学校から申し入れているのか、高齢者側が学校に申し入れているのか。

●委員

- ・PTAなど様々な委員会等があるが、どのようなメンバーなのか。

○担当課

- ・次世代育成アクションプランの各地区の委員は、青少年健全育成委員、地域の代表、区長会の代表、PTAの代表、学校の代表、老人会等各種団体の代表など。各地区でメンバーは若干異なる。地域の子どもは地域の宝として育てるということが、アクションプランの趣旨。
- ・学校と地域、どちらから声をかけるかは決まっていない。なるべく学校側が地域に声をかけて、ゲストティーチャーなどの設定をすることが大事だと考える。
- ・学校では年間計画が細かく決まっていて、受入れができない場合もある。ただ、子どもの心の育成のなかで、ゆとりある教育を目指すために創意工夫するよう伝えている。

●委員

- ・シルバー人材センターやPTA、高齢者団体などが学校で奉仕活動を行った時に、このことに対して、子どもたちにどのように指導しているのか。

○担当課

- ・感謝の心と、自分たちは一人では生きていけない、周りの人たちに支えられているということ
- とを指導している。

●委員

- ・内部評価は4だが、これでよろしいか。

●委員

- ・異議なし

●委員

- ・学校教育の問題は、家庭の教育や問題とも常に連動している。将来に向けて、しっかりと対応していただきたい。

○事務局

- ・欠席された委員から意見を聞いているので報告する。

農業の担い手（認定農業者、集落営農組織）の育成

●委員

- ・目標設定そのものが非常に甘い。甘い目標設定にも関わらず低い評価となっている。評価は2でもよい。

新たな米需給システムの確立

●委員

- ・国の方針が未定であるが、非常によくやっている。評価は4でもよい。

循環型農業を推進する

●委員

- ・農業公社のヤギの放牧など、非常によくやっている。内部評価のとおりでよい。

農業特産品の開発推進・販売奨励支援制度の拡大

●委員

- ・目標にある項目に対して、積極的に取り組んでいる。内部評価のとおりでよい。

●委員

- ・審議会の意見に、今の意見を付記させていただくことで、評価は審議結果のままでよろしいか。

●委員

- ・異議なし

●委員

- ・平成21年度政策基本目標管理外部評価について、これで議論を終結する。今後継続していく事業については、総合計画実施計画等の中に位置づけて、成果を確認、チェックしてから進めるよう各担当課に伝えていただきたい。

以上